



会報 2018年3月号

日本ニュージーランド協会 (関西)

創立1970年

New Zealand Society of Japan, Kansai

Neither heat nor cold lasts beyond the equinox

暑さ寒さも彼岸までと言われますが、桜前線も北上しています。南半球のニュージーランドは秋の気配が強くなっているようで、各地で農業祭なども始まるようです。

2017年度はお陰様で概ね計画通りに実施することができました。

次年度は、役員改選年でありますので、自薦・他薦を問いませんので今後2年間役員としてご協力いただける方は3月30日までに事務局へご連絡いただきますようお願い申し上げます。

第269回例会(会員総会)

と き：4月28日(土) 11時00分～13時45分

11時～12時 会員総会 その後昼食・懇談会

ところ：中央電気倶楽部 大阪市北区堂島浜2-1-25 TEL：06-6345-6877

第270回例会(ラム肉例会・調理と試食の集い)

と き：5月26日(土) 10時00分～13時45分

ところ：こうべ市民福祉交流センター 神戸市中央区磯上通り3-1-32

TEL：078-271-5314



(2017年クリスマス例会)

事務局：〒550-0002

大阪市西区江戸堀1-23-26 西八千代ビル3階C

電話・FAX：(06) 6607-2112

<http://nzsocietykansai.com>

E-mail：nzsjk@yahoo.co.jp

■ 第269回例会案内(会員総会等)

と き：4月28日(土) 11時～

ところ：中央電気倶楽部

北区堂島浜2-1-25

電 話：06-6345-6877

- 議件
1. 2017年度事業報告
 2. 2017年度決算報告
 3. 2018年度事業計画
 4. 2018年度収支予算
 5. 役員選出
 6. その他

昼食懇親会：12時～13時45分

参加費：4000円 総会は不要

(4月24日以降はキャンセル料必要)

出欠返事：4月17日(火)

(同封ハガキをご利用ください)

■ 第270回例会案内

(ラム肉の調理・試食会)

と き：5月26日(土)

10時00分～13時45分

ところ：こうべ市民福祉交流センター

中央区磯上通り3-1-32

078-271-5314

美味しく健康に良いNZ産のラム肉を調理・
試食しデザートのパブリアも楽しみましょう。

飲み物をご持参ください。

定員：35名 締切：5月22日(火)

(同封ハガキ使用時は4月17日までに)

協 賛：アンズコフーズ

参加費：2000円

申込み：Tel・Fax 06-6607-2112・同封ハガキ・

メール：nzs.jk@yahoo.co.jp

■ 第267回例会(柿狩り)中止

11月18日の柿狩りは生憎の天候不良のため中止し、申し込みされた方々には前日に電話・メールなどで連絡しました。協会行事で中止したことはこれまでなかったようですが、仕方ありませんでした。お弁当手配等いろいろご尽力いただいた太津さんにお手数をお掛けしました。

■ 第268回例会(クリスマス)報告

今回は、会場(神戸外国倶楽部)の都合で平日の12月7日(木)に開催しました。食事前のミニ・コンサートのゲストには京都市立芸術大学の学生さんお二人をお招きしました。ピアノは大塚昭花さん、バイオリンは米井遙香さん。おめでとうクリスマス・アメイジンググレース等を演奏していただき皆さん美しい音色に耳を傾けておられました。最後には、参加者一同でポカレカレアナ・きよしこの夜を合唱しました。恒例のバザー・プレゼント交換・NZクイズ・ビンゴゲームもあり、クリスマス例会は和やかな雰囲気の中終了しました。



(会場風景)

参加者：山下明・外山純・堀江悦子・奥村和彦・中村重夫
井上佳久・山田輝子・埴幸子・宗佐保・小松大氏
西川精一・林園子・林弘子・三浦治郎・牧初代
正木紀通・石井久行・柳田勘次・中谷紀子・太津
隆司・松元昇・松元美智子・迫キミ子・山野敏子
興津芳子・生嶋琴枝・津村政美・平戸ヨウ子
原貝由美・森川和代・木嶋征久子・吉田多津代

我孫子逸香・谷山節子・徳留啓子・鳥越百合子
野田貞子・羽生淳子・牧野裕子

■ 臨時例会報告

1月20日午後2時から3時30分、中央電気倶楽部で「ニュージーランドあれこれ」をテーマに開催しました。松元昇副会長は仕事上も含め60回前後NZを訪問、山下誠二会員は奥様との初めてのNZ旅行。松元さんからNZ建国前後の状況・日本との総合比較・ワイタンギ条約などの資料をもとにお話がありました。山下さんからは初めての旅行なので添乗員付きのツアーに参加し8日間効率よく北島と南島を巡り、NZの美しい自然に感動したお話がありました。その後NZワインを楽しみながら参加した皆さんと楽しい懇談をしました。太津会員からお土産としてキーウィフルーツをいただきました。お二人が作成された当日の資料をご希望の方は事務局へご連絡ください。



(臨時例会風景)

参加者：松元昇・山下誠二・山内龍男・武田耕道・山田輝子・塙幸子・正木紀通・林園子・井上佳久
加藤進・北野和夫・林進・太津隆司・石井久行

■ 「日本ニュージーランド協会連合会」 総会・懇親会(東京)

12月1日、新八重洲ビル会議室で隔年開催の総会が開催されました。会長は足立英雄氏(名古屋日豪NZ協会)から奥洞恵子氏(飛騨高山日豪NZ協会)に交代されました。当協会

を含め11団体が活動報告されましたが、会員数の減少・高齢化等共通の課題を抱えています。しかし、特徴のある活動(武道・華道の紹介・ラグビー交流等)を実施している協会もあり、今後は意見交換などをより深めることになりました。夕刻からは、NZ大使館でS.ペイトン大使のご臨席のもと懇親会があり、当協会から石井会長・貴志副会長が出席しました。美味しいラム肉等の料理とNZワインを65名ほどの出席者は楽しみ、親睦を深めました。2019年は、中部地区での総会開催が決定しました。



(石井会長・ペイトン大使・貴志副会長)

■ Kiwi的景観論

ニュージーランドの主要都市の空港からなら30分、地方都市なら15分も車で走ればどこでもあの美しい田園風景、グリーンのピロードのような牧場と点在する羊や牛馬の群れに出会うことになる。もっと注意して風景を見るとそこには視覚に不快感をもたらすような人工物がほとんどないことに気が付く。ニュージーランドの自然景観にはおよそ視細胞に不快な刺激をもたらすような大きくてけばけばしい看板、景観に溶け込まない目立った色彩の建物、山並みの稜線を引き裂くような高層構築物、ネオンや電飾、こういう類のものはほとんど見かけない。

ドライブは好きだから世界のあちこちドライブをして回った。アメリカ大陸ならペブルビーチから南へ太平洋岸沿いの国道1号線の海岸道路、ヨセミテ渓谷から標高4000m近くのタイオガ峠を越

える山岳道路、英国なら途中ネス湖を眺めるハイランドの道、中近東ではシリアのダマスカスからパルミラに至る砂漠の道、ヨルダンの標高 1000 m のモアブ高原にあるアンマンから海面下 400m の死海に至る歴史の道は途中モーゼがイスラエルの民に約束したというカナーンの地が遠望できる山頂を通る。トルコのアンカラから古戦場ハリュス河を経て古代ヒッタイト帝国の旧都ハットウシヤにたどり着く古代の街道。

さて、ニュージーランドの道の景観はといえばこれらの道には決して引けはとらない。若い国ゆえ、歴史的遺産には欠けるが総合すれば世界一流の美景といっても言い過ぎではないだろう。その特徴はまずバライテイに富む景観美である。南島なら比較的小さい地域の中に山岳、フィヨルド、氷河湖、海岸、星空などの自然美、牧場や森林、ワイナリーなどの二次的自然の美などがすべて見られる。第二に景観破壊的、視神経刺激的な人工物が見事に排除されており特に山脈の稜線を立ち塞ぐような構築物が一切見られないことは素晴らしい。山には山自体の美しさがあるがそれにも劣らず稜線美も大切だ。稜線美はフラクタルの美であり、どこか一か所でも人工物によってそれが妨げられたら直ちに人は違和感を抱く。

K i w i たちは当然この稜線美の性質と重要性にも気がついてそれを守るため様々な工夫をこらしているのであろう。しかしこのような景観美の保護は法律をいくら作っても規制を受ける国民の側にも同じような美意識がなければどこかで破綻するだろう。だからニュージーランドの景観美は法規制と国民の美意識の両面から守られていると想像する。

翻って日本の景観を考えるといささか暗然とする。法規制も粗漏だし国民の美意識もあやふやだ。もちろん日本人一般は自然美を愛すること人後に落ちない。景観についてもやはり繊細な審美眼を持っていることは間違いない。古来日本人はフラク

タル的美意識を守るため二つの方法を用いてきた。その一つは借景である。

菊を採る東籬のもと 悠然として南山を見る。

これは六朝時代の陶淵明の詩であるがこれは古くから日本人に膾炙されその上漱石が草枕の冒頭に引用したことからもはや国民的美意識の一部になっているといえるだろう。これを景観論の立場から見ればこれはまさに「借景」である。垣の向こうには民家があるかもしれない。そこに洗濯物が干してあるかもしれない。しかし垣がわが庭と南山の風景を結び付け俗世の光景は消し去ってくれている。これが借景的景観鑑賞法である。しかし借景はありどこでも使えるもの修景手段ではない。借景が使えないとき日本人は存在するものを存在しなかったことにするという感覚操作を行う。たとえば安芸の宮島に行ってみよう。対岸の渡船の港を出るとやがて厳島神社の大鳥居と社殿が正面に見えてくる。しかし残念なことに社殿の左右には色も形もまちまちの人家やホテルが立て込んでいる。宮島に着いて社殿の前から海上を見はるかすとかの大鳥居が本土側の山並みを背景として悠然と海に遊ぶさまが見える。しかし背後の山腹になにやら真っ白物が見える。写真家はカメラの角度を工夫して社殿の左右の建造物が映らないようにする。或いはピントを大鳥居に合わせ余分な背景はフォーカスアウトしてぼやかす。しかし生身の人間にはこれはできないから視細胞に映ったものを見えないものとするかなり高度な心理的感覚的操作を施し自分の脳裏には見えていないものとする。これがあるからこそ厳島神社の社殿と大鳥居は日本三大美景の一つとして我々日本人の記憶に刷り込まれる。この感覚操作を活用すれば山脈のフラクタルを乱す高層ビルもネオンの煌めきもある程度まで消し去ることができる。しかし K i w i たちは多分そうは考えない。在るものは在るのであって在らないことにはできない。存在すべきでない物は断乎として拒否し存在させない。それによってコストがかかって構わない。自分たちにとって重要な、或いは存在意義の一部である

景観価値はなんとしても守り抜くという強固な国民意志がそこに見える。その結果景観は国民の意志と厳格な法によって断固として守られる。ここに心理操作に頼りがちな日本人との結果の差異が明確に出てくる。(浜中謙治)

「季刊サザンクロス三重・春号」より転載。

(三重日豪 NZ 協会刊)

筆者紹介：はまなかけんじ。1937年大阪市生まれ
1960年伊藤忠商事入社、在職中アメリカ、ソ連(現ロシア)、エジプト、ドバイに駐在、同社退職後自営の傍ら世界シニアホッケー協会副会長などシニアスポーツ活動に従事。現在大阪府在住

- ・2年前の当協会の柿狩り例会にご参加、会報2017年6月号にNZ旅行記をご寄稿いただいております。

■ NZニュース・クリッピング (11月～3月)

・食肉業界新TPP歓迎(11月11日)

ベトナム・ダナンで開催されたAPECにおいて先進的TPP協定が結ばれた。その結果NZの食肉輸出が増加する見込み
羊肉の90%以上、牛肉の80%を輸出しているが、国内の雇用増加も期待される。

・ウールの輸出価格急落

輸出価格が急落し、羊農家が大きな痛手を受けている。10月までに4ヶ月の輸出量が前年同期比で14%増加したが、その価格が10%もダウンしている。多くの農家にとり加工・販売コストの上昇もあり利益がほとんど出ていないとのこと。

・過去9年で最も低い失業率

統計局の発表で、昨年12月までの4半期の失業率が4.5%と過去9年で最も低くなった。しかし、2007年12月4半期は3.3%と比較すればまだ高い。

・クライストチャーチで大規模なカーシェアリング始まる

100人以上の住民が、電気自動車を利用したカーシェアリングシステムに登録。
アートギャラリー・駐車場・ウエストエンド
駐車場・空港の3か所で貸し出しが可能。

・酒の消費量5年で最多

アルコールによる健康障害対策団体(Alcohol Healthwatch)の調べで、昨年10月～12月の4半期に一人当たりの飲酒量が過去5年で最も多かった。同団体は飲酒は薬物と同じと捉えており、消費を少なくするには酒税を増税することとしている。酒の値段は1988年に比較すると30%安くなっているようだ。

・NZの海もプラスチック汚染か

プラスチック汚染問題に取り組んでいるアメリカの5 GyresがNZ国内を調査中サーフィンで有名な北島のRaglan 海岸で多量のプラスチック海洋ゴミの破片を発見したと発表した。地元民も驚きを隠せないでいる。1度きり使用のレジ袋が多くの問題を引き起こすと警告している。5 Gyresは、Greenpeaceとマオリのリーダー達と共に、6万の署名を持って国会へプラスチック袋使用禁止を訴える予定。

・深刻な季節労働者不足

リンゴの産地、Hawke's Bay では深刻な労働者不足により、収穫のための労働者達が、休みなく働かされている状況。労働者不足の原因は不明とのこと。

・ジェイク・ロバートソン、琵琶湖マラソン3位(3月4日)

2時間8分26秒でNZ記録を破り初めて参加した琵琶湖マラソンで3位。
この記録は、1983年のニューヨークマラソンでロッド・ディクソンが打ち立てたNZ最速記録より33秒速い。

・今年の夏は記録的猛暑

気象研究所（N I W A）の報告によると、国内全体の平均気温は 18.8 度と猛暑の最高記録であった1934－35年より0.3度高いことが分かった。Alexandra が1月30日に38.7度を記録、これは1月の気温で39年来もっとも高い記録。

・ワイヘキ島でA i r b n b盛んに

ある調査ではオークランドでは1200軒以上が通年でA i r b n bに登録していることがわかった。特に利用率が高いのは観光地としても人気のワイヘキ島で、全住宅の3%が、頻繁に利用している。年間の稼働日は139日、収入は約27300ドル。

・タバコパッケージ無地化開始

3月14日よりパッケージ無地化を開始。今後、ブランド名・宣伝ロゴを表示したタバコの販売が不可能に。代わりオリーブブラウン色の単色無地のケースとなる。
2025年の禁煙国達成への一歩。保健省発表によるとNZ人の15.7%が喫煙者で、内40%がマオリ女性とのこと。

・なり手がいない毛刈り職人

「ひと昔前と違い、重労働が避けられています。多くの若者が金銭的理由でオーストラリアへ行ってしまい、NZで羊毛刈り職人を見つけるのが難しくなった」とネイピアの職人・J.カークパトリックさんは嘆いている。

・オークランドが世界生活環境ランクで5年連続3位に

毎年140都市を対象に調査される。1位はウィーン、2位はチューリッヒ、その他の主な都市は下記の通り。
ミュンヘン4位、バンクーバー5位、ロンドン6位、シドニー8位、ウェリントン15位、シンガポール25位、ニューヨーク44位、

東京47位、神戸50位、大阪60位、プラハ69位、ドバイ74位、ソウル76位、

(NZ大好きより)

■ ご寄稿のお願い

皆様からの原稿をお待ちしています。
ニュージーランド関係の情報・旅行記等をお気軽にお書きください。
次回の締め切りは、6月8日です。

■ 新会員募集

ニュージーランドに関心ある友人・知人のご紹介をお願いします。



(クリスマス例会 大塚さん、米井さん)



(日本ニュージーランド協会連合会 懇親会)